talk! talk! talk! シンガーソングライター・矢井田瞳さん

シンガーソングライター

矢井田瞳さん

「ヤイコ」の愛称で知られ、老若男女問わず人気の高い矢井田さん。色々な場所に行ってシャッターを切り、そのときの思い出と一緒にパッケージする。「写真って音楽と似てる」という矢井田さんに、日々撮り続ける街のスナップ写真や、シャッター音へのこだわりなど、カメラの楽しみ方をうかがいました。

プロフィール

やいだ・ひとみ

1978年、大阪府生まれ。

2000年『Howling』でインディーズデビュー。同年7月『B'coz I Love You』でメジャーデビュー。圧倒的な歌唱力と人間らしい唄に人気が出、同年『My Sweet da r lin'』、ファーストアルバム『daiya-monde』を立て続けにリリースし、大ヒット。翌年には初のドームツアーを行った。

『I'm here saying nothing』、『Ring my bell』、『孤独なカウボーイ』、『モノクロレター』、『STARTLiNE』、『恋パス』など、数々のヒット曲を生む。全国ツアーや音楽イベントへの出演にも精力的に活動している。
約2年間の充電期間を経て、2011年2月9日に再始動シングル『Simple is Best』をリリース。4月20日にシングル『同情みたいなLOVE』を、5月18日には3年2ヶ月ぶりとなる通算8枚目のオリジナル・アルバム『VIVID MOMENTS』がリリースされた。

Beginning 出会い

加工を目的にデジタルカメラを持ったら、創作の幅が広がった

カメラとの出会いはいつ頃ですか？

はじめてデジタルカメラを持つようになったのは、11年前くらいです。ちょうどデジタルカメラが浸透しはじめた頃で、これは面白そうだ！　と思って手に入れました。当時のデジタルカメラは、今のコンパクトなものとは比べ物にならないほど大きかったのに、液晶モニターは小さくて見づらかったんですよ。

「面白そうだ！」と思ったきっかけは何ですか？　写真を撮ることでどのような楽しみ方をしようと思ったのでしょうか。

もともとパソコンで画像を加工したり合成をして編集するのが好きだったんですが、カメラをはじめたら自分で素材を作れるから、すごい世界が広がると思ったんです。ブログをやりはじめて、自分で撮った写真を人に見せる場ができたというのもきっかけのひとつでした。

ご自身で撮られた写真を素材にして、どんな加工を楽しまれていたのですか？

撮った写真をパソコンに入れて加工するのですが、「温泉に行きたいなぁ」と言っていた友だちには、写真をこっそり撮っておいて、「サァ、どこに連れてってやろうか」って、友だちの顔写真と温泉の写真を合成させて、温泉に入っているみたいにする（笑）。それを友だちに送って、くすっとした笑いというか、ちょっとしたサプライズを提供してました。顔写真の編集でも、髪の毛の細かいところまでこだわって、顔を切り抜いてましたね。

かなりデザインも凝った楽しまれかたをしていたのですね！　昔から、カメラや写真がお好きだったんですか？

デビューしたての頃は写真を撮られることが苦手でした。レンズを向けられると身構えてしまって、心を閉ざしていたんです。でも自分が写真を撮るようになってからは、レンズの奥には人間がいるということがわかったので、苦手意識はなくなりました。写真を撮られるときって、カメラマンと私がいて、その間にレンズ―カメラがあるというだけなんです。カメラは、色んな人に届けるためのツールで、あくまで人間と人間のコミュニケーションだなって思えるようになってからは、苦手だった撮影も苦ではなくなり、すんなりいくようになりました。

Pleasure 楽しみ

写真を撮ることで、思い出を一緒にパッケージできる

加工用以外ですと、現在はどんな写真を撮られていますか？

空や花、猫、鳥を撮ることが多いです。楽器も好きですし、身近にあるのでよく撮るのですが、私のクセで、つい被写体に寄ってしまうんです。なのでピアノの写真も、全体を写したものではなく、アップの写真ばかりになってしまうんですよ。

撮影のためにどこかに行くというよりも、日常的に写真を撮られているのですか？

コンパクトデジタルカメラを持ち歩いていて、いつでもサっと撮れるようにしています。街中とか、普段は歩かないような路地でちょっと面白いものを撮るのが好きです。以前、電柱に貼ってあったチラシの剥がされた跡が、ちょうど人の顔みたいに残っていたんです。偶然にできたものだからこそ面白くて、普通に歩いていたら見逃してしまうんですが、私の場合「面白い被写体探し」のアンテナを張るようにしているので結構見つかります。

猫や鳥など、動物も撮られるとのことですが、こだわりの撮り方やよく撮る動物はいますか？

猫は路地裏にいる自然な雰囲気を撮っています。鳥は鳩を撮っています。鳩を撮るのが好きなんですよ（笑）。公園に行ったとき娘が鳩に餌をやって、集めては追い散らしてと楽しそうにしていたので、「これは何か面白いものが撮れるかも」と思ってシャッターチャンスを狙っていたら、飛び立つ瞬間や羽ばたく鳩を写真に収められました。普段から「面白いもの探し」をしているか

ら、何気ない面白いことに対して、嗅覚が鋭くなったのかもしれません。

ライブなどで地方に行かれることも多いかと思いますが、遠くに行かれたときにもカメラを持っていかれるのですか？

結構ちょこちょこと持ち歩いては撮影をしています。以前屋久島に行ったとき、圧倒的な自然に感動して、見たままの景色を写真に収めたいとシャッターを切りました。でもやはり肉眼の方がすばらしくて、見えている景色と写真になった景色は全然違うんです。目の前にある屋久杉の緑の鮮やかさや、差し込む光の美しさがうまく再現できなくて、見たままとの差が凄く悔しかったです。街を撮るときは直感でバシャバシャと撮りますが、自然を見たまま撮ろうと思ったら、やっぱり写真を撮る技術を身につけないとって思いますね。

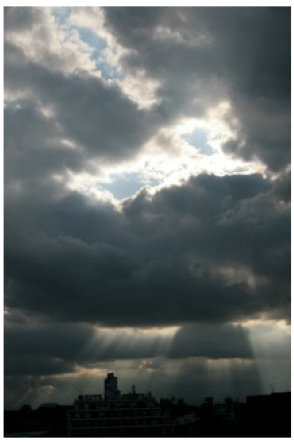
矢井田さんのブログは写真を掲載されていますが、どんな写真を載せるようにしているのですか？

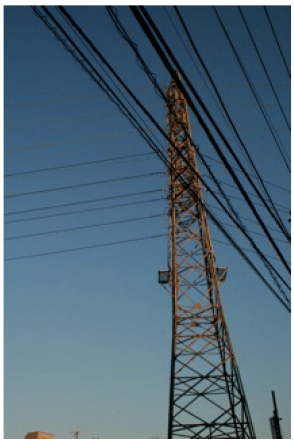
空や花の写真も載せますが、自分の足下を撮った写真をよく載せます。足下しか写していないのに、後で見返すとどこに行ったときの写真だとか、いつだったとか思い出せるんです。ほかの写真もですが、思い出と一緒にパッケージされているんです。空の写真って、青空か夕焼けか雲か雨かなど、けっこう限られていますよね。でも、いつ、どんなときに撮った空かわかるんです。それが特別な思い出じゃなくて、家にいるときに何気なく撮った夕陽の写真でも、「あの晩ご飯食べたときの写真だ」って不思議と蘇ってくるんです。

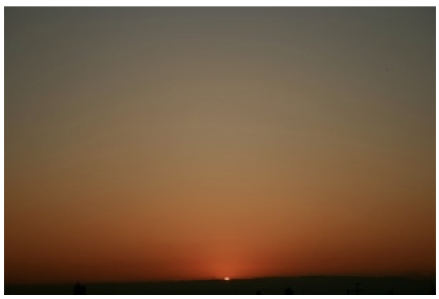
ご自身で撮られた写真が曲作りのヒントになったりすることはあるのでしょうか？

さあ曲を作ろう、と思ったときに、何も浮かばないときがあります。そういうとき、以前撮った空の写真を見ていると、これは札幌で撮った空だ、ということを思い出すんです。それと同時に、札幌での出来事や思い出がぱーっと蘇ってくる。それがきっかけになって曲になることがありました。曲を書くことと写真を撮ることって、日常にアンテナを張るという点が似ています。自分の心を外に向けないと、写真は撮れないし、曲も作れないんですよ。

Photo's 作品紹介







Future これから

遠く離れた場所にいても、写真を通して気持ちを伝え合える

これから先、撮ってみたい被写体はありますか？
月をきれいに撮りたいです！　以前写真に詳しい知人が、しっかりセットアップして、時間をかけて月を撮っていたのですが、月にいるうさぎ（月面の模様）が見えるんじゃないかってくらい、しっかりと写っていたんです。それが羨ましくて、私も自分の一眼レフカメラで撮ってみたんですが、どうしてもうまくいかない。光がにじんでしまったり、月が小さくなってしまったりで、思ったように撮れないんです。撮り方を勉強したいですね。

カメラを選ぶときに、どんなこだわりがありますか？

シャッター音にはちょっとしたこだわりがあります。今のコンパクトデジタルカメラを買うときもシャッター音を重視して、店先で色んなカメラを手に取り、好きな「カシャ」を探してシャッターを切りまくりました。理想はフィルムカメラのシャッター音で、押し感といい、雰囲気があっていいですよね。フィルムカメラに手を出してしまうとキリがなくなってしまいそうなので持っていないのですが、現像するまでどんな写真が撮れたかわからない面白さに興味があります。

シャッター音を重視するとは、ミュージシャンならではのこだわりかもしれませんね。最新のデジタルカメラはシーン撮影など便利機能やオートモードが充実していますが、どのように撮影されているのですか？

自分である程度いじって撮影したいので、オートモードだけで撮ることはあまりないです。自分で設定を少し変えるだけで仕上がりはだいぶ変わりますし、シャッタースピードを調整してわざと心霊写真みたいな写真を撮ってみたり、色んな楽しみ方があるんです。

かなりこだわりを持って撮影されてますね。矢井田さんが感じる、カメラの魅力やこれからの可能性とは何でしょう？

タンザニアにいる友だちが、バオバブの木とか、タンザニアの風景の写真をよく送ってくれるんです。芸術的にうまい写真ではなくて、普通の風景なのですが、撮った私の友だちの感じていることが直に伝わってくるような写真ばかりです。1、2年ほど会っていないのですが、写真のおかげで全然そんな気にならない。友だちの顔は写っていないのですが、友だちがいる場所、見ているものが写っているので、ずっと会っている気がするんです。場所が離れていても、繋がっている気持ちになれるのは写真の大きな魅力だと思います。

これからも、矢井田さんの面白い街中スナップ写真が増えていくのが楽しみです！　ありがとうございました。

コンテンツトップへ戻る

※掲載している情報は、コンテンツ公開当時のものです。

株式会社 ニコン 映像事業部
株式会社 ニコン イメージング ジャパン

© 2019 Nikon Corporation / Nikon Imaging Japan Inc.